☑ 入試粉砕・学園再占拠へ向けて、学館を奪還せよ！
☑ 『大学解体・反大学』全共闘M結集・学館解放

☑ 明大全共斗 正門館統一戦線・書記局 ☑ NO.31

和泉地区の全学友諸君！ 全国の学園、都市空間における我々をとりまく情況とは何であり、我々に問われているものとは何か？ 現在進行中の授業再開路線＝正常化になるものは、あの激動の69年全国学園斗争以前の、屈辱たる学園秩序への復帰なのであろうか。そして日本の諸々連々たる物情騒然たる情況へおとしいれ、政府ブルジョアジーをして、大衆のエネルギーの反体制志向からめに全国全共斗Mは、一定の徒死にすぎなかったのかを、我々に、はっきりと問えるであろう。全共斗は決して自己の意図を吐露したりはせず、そして「安定」の断片の部分を克服することを、こう長く限りはしないものだ。実は、こうして民衆の意識に取り入り、日々進行しているのであり、我々に何より問われているのは、「正常化」「秩序」の名の下に何が進行しているのかを洞察し、それと対決していくことではなかろうか。それ故、全共斗の任ムは全く終ってはいないのだ！

学友諸君！ そして確認しよう。 今秋11月安保決戦を 機動隊の圧倒的増強、三千名を越す大量逮捕によって切り抜けた政府ブルジョアジーは、沖縄の帝国主義的返還を、民族的悲願の達成であると述べることで、又、学生・反戦青年委のMを、一国の首相の外遊に反対し法秩序を乱す暴徒は、国民の力へ自警団の活躍を見よ）でセン滅せよ、とすることで、70年代対策の完璧な仕上げに着手しているのである。おそらく、戦後の高度発展から自立した帝国主義へと、そして65年日韓を契機に自己の延命の道を東南アジアに設提した日帝にとって、70年安保とは、70年代東南アジア侵略と反革命の軍事協定・沖縄問題であり、沖縄をメルクマールとする国内のナショナリズム、ファシズム体制の確立―帝国主義的国内再編の貫徹に他ならず、我々が今直面している一連の学園「正常化」路線―機動隊導入・ロックアウト・授業再開―も その有機的一環として位置しているのである。これこそ我々をとりまく学園の情況なのだ。それ故、社会の、学園の動向は旧秩序の復帰などでは、一切ない。そして具体的には、中教審・大学立法に集約される教育再編は、現実化しつつある。機動隊暴力・学内右翼研究会による全共斗Mの圧殺を媒介に、70年代を展望するブルジョアジーの要請に見合うブルジョアイデオロギーと労働力商品を創出する大学へと再編することの目的別大学構想へ大学の複線化、格差化、理工系の拡充と国家支配強化へ学生自治抑圧、学内反限の学長諮問会への移行し統一として進行しているのだ。

学友諸君 思い起こしてみよ！ 全国の学園斗争は、資本主義社会における大学、学問、自治とは何であるかを問うことを通し、こうした帝国主義的大学再編と対決する斗いとして爆発したのであった。そうである以上、我々全共斗の斗いは今一層重要なものとして、その徹底性 永続性を問われているのである。我々は 再度現要を破らねばならない。帝国主義者の策動に対して、〈大学解体・反大学〉Mをつきつけることが今こそ問われており、何よりも具体的行動が要求されているのだ！ 権力・当局による学園支配を、組織された全共斗部隊で突破し、入試粉砕！学園再占拠へ向けて学館を奪還せよ！ 学館を従来のごとき、緊張の欠落したズブズブの学内秩序内・空間としてではなく、〈大学解体・反大学〉全共斗Mの拠点として、斗う学友に解放せよ！ 以前のサークル・文化Mの一切のふざけきったサロン化を清算し、ブルジョア大学・学問批判の、戦後世界告発・解体のMを貫徹する、いわば、政治・芸術・文化の統一された斗いの拠点として、我々の〈斗いの中の結合の場〉として学館を解放し、連続的な斗いとして拡大することが、我々の任ムであり、行動方針なのである。我々は本日の斗いを突破口に、学館解放を保障する武装と組織性を獲得し、学館占拠・泊まり込みをも勝ちとり実現するであろう。全て学友は全共斗に注目し、全共斗と共にたて！

☑大学立法適用「正常化」路線ロックアウト体制下授業再開粉砕！ ☑70年安保沖縄斗争勝利！

☑明大解体・反大学の旗の下、全共斗に結集せよ！